

第24期第3回常任理事会議事録

日時 昭和61年12月8日(月) 13:30~16:20

場所 気象庁観測部会議室

出席者 関口, 中村, 重原, 能登, 河村, 村上, 荒川

議題

A. 報告事項

各委員会報告

〔庶務〕

資料にもとづき報告があった。主なものは次のとおり。

- (1) 日本工業新聞社から「宇宙産業展」協賛名義使用の許可申請。
- (2) 気象庁総務部長から WMO・IMO 賞の候補者の推薦依頼。
- (3) 国土庁防災局長から防災関連情報の保有・利用・需要等に関する調査依頼。
- (4) 朝日新聞社から昭和62年度朝日学術奨励金候補の推薦依頼。

〔講演企画〕

ポスターセッションについてのアンケートを名古屋の秋季大会で行い、アンケートの結果をふまえて62年度春季大会(筑波地区)からポスターセッションを試行する。

B. 審議事項

1. 気象集誌における著作権の扱いについて

気象集誌編集委員会から提出された著作権に関する案が原案通り承認された。今後気象集誌掲載論文には©がつけられることになる。なお、今後著作物利用許可申請に対しては、問題のないものは庶務理事及び事務局で処理し、問題があるものは気象集誌編集委員会にまわすこととなった。

天気、気象研究ノート、予稿集については各担当編集委員会で著作権を検討し、全体で統一案を作成することとなった。

2. 気象集誌の英文校正について

村上担当理事から資料(試案)にもとづいて説明があり、検討の結果、更に気象集誌編集委員会で検討を加えて次回の常任理事会に提出することとなった。

3. 評議員会の開催について

第24期第1回評議員会を昭和62年1月12日

(月)竹橋会館で開催することが承認された。

4. 国際学術交流について

(1) 基金の寄付について

基金の性格の明文化、目標額等について更に検討を加えてゆくこととなった。また、寄付の趣旨書を委員会で作成することになった。

(2) 外国人会員に対する国際学術交流基金からの援助について

学会費の免除、補助等の優遇措置は「はどめ」がないのでむづかしいが、機関誌への投稿に対する便宜は図る。

(3) 国際学術交流事業について

1987年4月中国で開催される“International Conference on the general circulation of East Asia”を日中協力国際事業として位置づけ、加藤内蔵進(名大・水圏科学研)および村上勝人(気象研究所)両会員を派遣し、補助金をだすことが承認された。

なお、個人に対する補助でなく、グループに対する補助については国際学術交流委員会で検討する。

5. 各基金利子の基金への繰り入れについて

原則的に了承され、細部については庶務、会計、国際学術交流の各担当理事で協議する。

6. IAMAP の招致について

次回の常任理事会での審議。

7. 事務総長を設けることについて

理事長及び庶務理事で検討していくことになった。

8. WMO・IMO 賞の候補者について

各賞委員会で気象庁の意向を聞いたうえで候補者を推薦する。

9. 担当理事および委員の交替について

会計担当理事(副)

新 関口理事 旧 河村理事

天気編集委員 新 水間満郎(京大原子炉)

旧 中島暢太郎

講演企画委員

新 増田委員（東大） 旧 林委員（東大）
国際学術交流委員
新 二宮委員（予報部）
旧 原田委員（予報部）
以上の交替が承認された。

10. 会員の新規加入の承認について
個人会員道本光一郎ほか17名の新規加入が承認された。
11. 気象集誌特別号の出版社について
次回の常任理事会で審議

編集後記：今月はリモートセンシングによる気象観測としての静止気象衛星をめぐる新しい技術を米国で計画中の GOES-NEXT を例に解説していただきました。スピン安定から三軸安定方式へ、またイメージャーとサウンダーの二刀流観測へと「科学の真理」幻想をパラノ

イックに追い求め、新技術を次々と実現してゆく米国の姿勢には驚嘆させられます。この衛星によって、衛星気象学にどんな新しいパラダイムが導入されるか今から楽しみです。

（リゾーム）